

愛知医科大学病院 歯科医師臨床研修プログラム

※ 注意：当科での卒後研修は 2年研修(一般歯科・口腔外科基礎養成コース)です。1ケ年カリキュラムはありません。2年間続けられる方のみ応募してください。また麻酔科・救命救急科・形成外科研修は必須です（麻酔科，救命救急科は当直研修あり）。当科副宅直も必須です。

1 プログラムの目的と特徴

当科の特徴：大学病院歯科口腔外科であることから口腔外科疾患の他、入院患者さんおよび有病者の歯科治療（令和2年度外来受診患者数：1日平均107.2人、入院患者数：1日平均12.6人）も多く手がけている。当科の研修期間は2年であり、2年間でカリキュラムを修める。

- * 口腔外科では多様な疾患を経験できる特徴がある。外来での口腔外科では埋伏歯、小嚢胞、歯根端切除、小帯切除、インプラント（先進医療を取得）などの手術や顎関節症に対する関節洗浄療法が年間約1200例行われている。入院では外傷、炎症、腫瘍、顎変形症、口唇・口蓋裂、インプラントなどの入院手術件数が年間約250例ある。インプラントはブローネマルクシステムインプラントを用いており、年間約100本の埋入を外来または入院下（骨移植・上顎洞挙上術・化骨延長法併用）で行っている。
- * 当科は日本口腔外科学会研修認定施設、日本顎顔面インプラント学会研修認定施設、日本口腔科学会研修施設となっている。
- * 歯科治療は有病者の歯科治療を行っており、また睡眠時無呼吸症候群に対するPMA治療や顎関節症のスプリント治療も多く行われる。よって、一般歯科治療の技量と幅広い歯科関連知識の修得の他に全身状態の把握に要する医科知識と状況に応じた対処法の修得が重要である。そのため当科研修医は歯科研修プログラムの他に医科研修医が出席する講義（毎週開催）の出席が必須であり、ここで医科臨床の知識を身につけることになる。さらに研修 2年時には、全身管理および麻酔管理に関する知識と技能を身につけるため、麻酔研修3ヶ月、さらに救命救急臨床研修1ヶ月が必須研修としてある。また、2年目に2週間、形成外科での研修を必須としている。

なお、大学院希望者は試験後に大学院へ入学することが可能である。

目的：全身的観点から口腔疾患の診断及び治療に関する知識と技術を実地に体得し、医倫理を修めることを目的とする。実施方針については、以下のとおりである。

- (1) 歯科口腔外科臨床研修は、指導責任者（口腔外科指導医2名、一般歯科指導医5名を含む助教以上）のもとに、全身的病態との関連や治療時の必要知識と治療方針及び実際の治療時の留意点を修得するようにする。

- (2) 一般的な歯科疾患および小口腔外科疾患の診断, 治療計画の立案及び実際の治療の修得 (一般歯科診療では担当医となる) を目指す。
- (3) 歯科患者の全身管理・麻酔管理に関する知識と技能の修得を目指す。
- (4) 関連する他科疾患の診断については, 他科との対診及び連携を密にして研修成果をあげるようにする。実地に際しては, 先の指導責任者及び助教以上の医師が実際の指導にあたるが, 国家免許をもった 1 人の歯科医師としての自覚を持ち, 積極的に勉強し, 自ら考え, 他の歯科医師や医師と討議, 連携し, 多面的観点から患者及び病態を見て, 適切な治療方針及び治療が行えるよう努めること。

2 プログラム責任者と指導医名

(1) プログラム責任者

風岡宜暁 (教授、(公社)日本口腔外科学会専門医・指導医、臨床研修指導歯科医、日本がん認定機構暫定教育医、日本口腔科学会指導医、日本顎顔面インプラント学会指導医)

(2) 指導歯科医

各務秀明 (教授(特任)、(公社)日本口腔外科学会専門医・指導医、臨床研修指導歯科医、日本口腔科学会認定医、日本顎顔面インプラント学会指導医、日本口腔インプラント学会専門医・指導医、日本再生医療学会認定医)

古橋明文 (講師、(公社)日本口腔外科学会認定医・専門医、臨床研修指導歯科医、日本口腔科学会認定医、日本睡眠学会歯科専門医、日本睡眠歯科学会認定医・指導医) 副プログラム責任者

伊藤邦弘 (講師、(公社)日本口腔外科学会認定医、臨床研修指導歯科医、日本口腔科学会認定医、日本睡眠学会歯科専門医、日本睡眠歯科学会認定医・指導医、日本静脈経腸栄養学会認定歯科医)

林富雄 (助教、(公社)日本口腔外科学会認定医、臨床研修指導歯科医、日本口腔科学会認定医、インфекションコントロールドクター、抗菌化学療法認定歯科医)

(3) 指導補佐歯科医

近藤さゆり (医員助教、(公社)日本口腔外科学会認定医、日本口腔科学会認定医)

松山怜実 (医員助教、(公社)日本口腔外科学会認定医)

瀧川友佳子 (医員助教、(公社)日本口腔外科学会認定医)

西尾未守 (専修医)、加藤三香子 (専修医)、

恩田真帆 (専修医)、岩田侑真 (専修医)

3 募集定員・募集方法及び試験

- (1) 定員 3名
- (2) 方法 歯科医師臨床研修マッチング協議会が実施する歯科医師臨床研修マッチングにより公募する。ただし、マッチング終了後に定数に空きがある場合は別途募集を行う。
- (3) 試験 筆記試験（YG性格検査とクレパリン検査）、面接試験

4 処遇

- (1) 手当 : 1年目 1,605円/時（248,800円/月）
2年目 1,663円/時（257,878円/月）
※ 別途賞与を支給
- (2) 社会保険：健康保険・年金は日本私立学校振興・共済事業団に加入，労災保険及び雇用保険適用
- (3) 勤務時間：勤務時間，勤務時間の割り振り，休憩時間，育児時間，勤務を要しない日，時間外勤務等については職員の例による。
- (4) 出勤 : 出勤・欠勤・遅刻・早退・外出・年次有給休暇・特別休暇・病気休暇・職免休暇・休暇等の届出については職員の例による。
- (5) 休日 : 土曜日，日曜日，祝日，年末・年始（12/29～1/3）
- (6) 休暇 : 年次有給休暇 12日～17日
リフレッシュ休暇 5日～6日
特別休暇 結婚，慶弔など（最高10日）
病気休暇 最長1ヶ月
職免休暇 学会出張等
- (7) 常勤・非常勤の別：常勤
- (8) 研修歯科医のための病院内の部屋：1室

5 当直

麻酔科及び救命救急科での当直あり。歯科口腔外科での副宅直も必須。

6 その他

- 宿舎 : なし
- 食堂 : 院内食堂（有料）あり
- 健康管理 : 定期健康診断の実施（年 2 回）、風疹・麻疹・水痘・ムンプスの抗体確認検査とワクチン接種、B 型肝炎抗原抗体確認検査とワクチン接種等
- 賠償責任保険 : 歯科医師賠償責任保険 : 各自加入のこと。ただし有事の際は当院加入の保険を適用する。
- 院内研修会 : CPC, 早朝カンファレンス, 各科主催の症例検討会など
- 学会 : 参加自由（費用は個人負担）
- 白紙 : 白衣及び KC 白衣を各 5 枚無償貸与（クリーニング代は病院負担）

7 研修内容と到達目標

（1）研修指導体制

歯科口腔外科臨床研修は、指導責任者、指導歯科医が指導に従事する。指導補佐歯科医は指導歯科医を援助する。研修歯科医は入院診療および外来診療において指導歯科医のもと全身的病態との関連や治療時の必要知識を修得し、治療方針の立案および治療の実地を行う。

また、休日診療、当直および宅直において、当番医の指導のもと副直医として時間外診療を研修する。臨床経験症例はその都度指導責任者、指導歯科医（単純な抜歯や歯科治療は指導補佐医も可）に診療内容のチェックを受けカルテにサインを受けるとともに補綴、保存症例の担当になった場合には症例経験用紙に記入する。さらに各研修項目の到達評価欄に例数を記入し症例経験用紙とともに 1 ヶ月毎に指導歯科医に提出する。指導歯科医は適時、研修に関する相談を受け、臨床指導、口頭試問、助言を行い、必要時にはレポートのテーマを呈示するとともに 1 ヶ月間の評価をし、次の 1 ヶ月間の研修に関する助言、指導を行う。

なお、当科では 2 年の研修期間であることから 1 年次の到達目標は努力目標であり、最終的には 2 年次終了までに到達することを目標とする。

（2）一般歯科口腔外科基礎養成コース

歯科口腔外科での研修実施

- ① 外来診療（毎日）
- ② 病棟診療（毎日）
- ③ 手術（木曜日・金曜日）

- ④ 宅・当直（当番医のもと副宅直医として従事）
- ⑤ 教授回診
- ⑥ 抄読会・症例検討会（木曜日）
- ⑦ 病棟カンファランス（月曜日）
- ⑧ 外来小手術（月～金曜日）
- ⑨ 講義、講演、学会
- ⑩ 臨床医学セミナー
- ⑪ 自己学習・自己啓発

研修協力施設での研修は以下の4施設で、1年目に2週間、2年目に2週間の期間を行う。

各研修協力施設の特徴

いけもり矯正歯科	指導責任者：歯科矯正専門医	研修内容：一般矯正、術前矯正
小島歯科医院	指導責任者：口腔外科出身	研修内容：歯科治療全般、障害者治療、小児歯科、学会活動
医療法人十種会丸子歯科	指導責任者：補綴出身	研修内容：歯科治療全般、矯正、インプラント、小児歯科、予防歯科
名古屋矯正歯科診療所	指導責任者：歯科矯正専門医	研修内容：一般矯正，術前矯正

（3）研修の具体的な内容

- ① 適切な問診による病歴聴取
- ② カルテ記載
- ③ 各種器具，機械の取り扱いの修得
- ④ 一般歯科疾患の診断，診療計画の作成および説明と同意、治療
- ⑤ 有病者歯科診療の注意点の修得と診断及び治療方針の立案と説明と同意、治療
- ⑥ 口腔外科疾患の診断,診療計画の作成
- ⑦ 外来小手術の実施（普通抜歯、簡単な埋伏抜歯、膿瘍切開（数歯のわたる大きさまで）、小帯異常、小嚢胞、歯牙脱臼、歯槽骨骨折は説明と同意、治療、経過観察まで）
- ⑧ 単純 X 線，断層 X 線写真，MRI 写真の読影
- ⑨ 一般血液検査の解釈
- ⑩ 協力歯科医院での総合的歯科診療や矯正治療を見学・体験する。

- ⑪ 麻酔科・救命救急研修をとおり、全身管理・麻酔管理・生命や機能的予後に係わる緊急を要する病態に対応出来る知識・技能を修得する。
- ⑫ 形成外科研修で整容的知識・技術を見学・体験する。

(4) 到達目標：

① **G I O (一般目標) ⇒各ユニット**

② **各ユニット下にS B O s (行動目標) が設定される。**

S B O s の行動目標群には次の3領域がある。⇒ 知識 技能 態度・習慣

③ **各々のS B O s (行動目標) に対して学習方略 (L S) がある。**

L S 種類：(1) 印刷物、(2) 黒板、(3) スライド、(4) テレビ、(5) 模型、(6) シミュレーター、(7) 患者

知識：(1) ~ (7)

技能：(1) (2) (4) ~ (7)

態度・習慣：(3) (4) (7)

④ **S B O s に対して評価 (E V) を行う。**

① 論述テスト ② 口頭試験 ③ 客観テスト ④ シミュレーションテスト (1 筆記型、2 標準模擬患者、3 模型、4 コンピューター) ⑤ 実地試験 ⑥ 観察記録 ⑦ レポート・ポートフォリオ

知識：①~④-1, 2, 4 ⑤~⑦

技能：④-2, 3 ⑤⑥

態度・習慣：④-2, 3, 4 ⑤⑥⑦

I : 臨床基礎

G I O : 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。

S B O s : 行動目標

① 病歴聴取・記録が的確に行える。

② 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

③ インフォームド・コンセントのもとに、患者・家族への適切な指示，指導ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
④ 守秘義務を果たし，プライバシーへの配慮ができる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
⑤ 相手に好印象を与えている。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O : チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し，保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調する。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
② 上級・同僚医師，他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
③ 医療チームにおける実践的な役割を理解し適した行動がとれる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
④ 患者の転入，転出にあたり情報を交換できる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
⑤ 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
⑥ 病診連携が行える。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O : 問題対応能力

患者の問題を把握し，問題対応型の思考を行い，生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し，当該患者への適応を判断できる (E B Mが実践できる)。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
② 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
③ 臨床研究や治験の意義を理解し，研究や学会活動に関心を持つ。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
④ 自己管理能力を身につけ，生涯にわたり知識、基本的診療能力の向上に努める。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O : 安全管理

患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し，安全管理の方策を身につけ，危機管理に参画する。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
-----------------------	-----------	------------------	--------------------

① 医療を行う際の安全確認の考え方を理解・実施できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
② 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
③ 院内感染対策（Standard Precautionsを含む）を理解・実施できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
④ クリニカルパスを施行できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O : 症例提示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例提示と意見交換を行う。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 症例提示と討論ができる。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
② 臨床・学術に関するカンファレンス・学会・集会に参加、発表（1演題以上）する。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O : 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価する。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 診療計画（診断，治療，患者・家族への説明を含む；POSシステム）、診療概要録、手術記録を作成できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
② 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
③ 入退院の適応を判断できる（デイサージャリー症例を含む）。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
④ QOL (Quality of Life) を考慮にいたった総合的な管理計画（リハビリテーション，社会復帰，在宅医療，介護を含む）へ参画する。	態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦

G I O : 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し，社会に貢献する。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 保健医療法規・制度を理解し，適切に行動できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
② 医療保険，公費負担医療を理解し，適切に診療できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

③ 医の倫理，生命倫理について理解し，適切に行動できる。

知 (1～7)

①～④-1, 2, 4⑤～⑦

Ⅱ：歯科治療

G I O：基本的な歯科疾患の診察法

歯科において基本的な診察法・検査・手技・治療法を経験する。

S B O s：行動目標

- ① 歯牙、口腔内（歯，歯周組織、舌，口底，頬粘膜，硬口蓋，軟口蓋等）所見をとり記載する。
- ② 特に全身の観察と歯科治療時に関係のある臨床検査所見を理解できる。
- ③ 歯科治療時の全身的問題点を把握し記載ができる。
- ④ 歯科治療時の全身的問題点に関するコンサルトが関連医科に行える。
- ⑤ 歯科治療時の局所的問題点の把握・記載ができる。

分類

研修方略(LS)

形成的評価(EV)

- | | | |
|---|-------------|----------------|
| 技 | (1, 2, 4-7) | ④-2, 3⑤⑥ |
| 知 | (1～7) | ①～④-1, 2, 4⑤～⑦ |
| 知 | (1～7) | ①～④-1, 2, 4⑤～⑦ |
| 態 | (3, 4, 7) | ④-2, 3, 4⑤⑥⑦ |
| 知 | (1～7) | ①～④-1, 2, 4⑤～⑦ |

G I O：基本的な歯科臨床検査

口腔，歯牙の病態と臨床経過を把握し，また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき，結果の解釈ができる。

S B O s：行動目標

- ① 歯科用X線検査と読影ができる。
- ② パノラマX線検査の読影ができる。
- ③ 電気歯髄診断、EMRができる。
- ④ 温冷痛検査ができる。
- ⑤ 歯周検査ができる。
- ⑥ スタディモデルの診査ができる。

分類

研修方略(LS)

形成的評価(EV)

- | | | |
|---|-------------|----------------|
| 技 | (1, 2, 4-7) | ④-2, 3⑤⑥ |
| 知 | (1～7) | ①～④-1, 2, 4⑤～⑦ |
| 技 | (1, 2, 4-7) | ④-2, 3⑤⑥ |
| 技 | (1, 2, 4-7) | ④-2, 3⑤⑥ |
| 技 | (1, 2, 4-7) | ④-2, 3⑤⑥ |
| 知 | (1～7) | ①～④-1, 2, 4⑤～⑦ |

G I O：歯科基本治療診断

歯科治療において基本的な診断能力を修得する。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

S B O s : 行動目標

- ① 保存修復治療適応の診断ができる。
- ② 歯周治療適応の診断ができる。
- ③ 歯内治療適応の診断ができる。
- ④ 補綴治療適応の診断ができる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

G I O : 歯科基本治療計画

歯科治療において基本的な治療計画能力を修得する。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

S B O s : 行動目標

- ① 保存修復治療計画の立案ができる。
- ② 歯周治療計画の立案ができる。
- ③ 歯内治療計画の立案ができる。
- ④ 補綴治療計画の立案ができる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

G I O : 歯科基本治療

歯科治療において基本的な治療を修得する。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

S B O s : 行動目標

- ① 保存修復治療ができる。
- ② 歯周治療ができる。
- ③ 歯内治療ができる。
- ④ 補綴治療ができる。
- ⑤ 歯科治療に必要な麻酔が施行できる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

G I O : 総合的な歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施

1 口腔単位で総合的な歯科疾患の診断から治療まで行う。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

S B O s : 行動目標

- ① 1 口腔単位で総合的な歯科疾患の診断ができる。
- ② 1 口腔単位で総合的な歯科診療計画が立案できる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

③ 1 口腔単位で総合的な歯科治療が行える。 技 (1, 2, 4-7) ④-2, 3⑤⑥

G I O : 基礎疾患を有する患者の歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施・・・重点項目

基礎疾患に留意した総合的な歯科疾患の診断から治療まで行う。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 基礎疾患を十分に理解し総合的な歯科疾患の診断ができる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
② 基礎疾患の問題点を視野にいたした総合的な歯科診療計画が立案できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
③ 基礎疾患の問題点に対応した総合的な歯科治療が行える。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

Ⅲ : 基礎口腔外科

G I O : 口腔外科基本診察法

基本的な口腔外科疾患および身体の診察法を修得する。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 口腔内および口腔外科領域の観察ができ、記載ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
② 口腔外科疾患の診断手順が理解でき実践できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 口腔外科疾患や手技に関連した局所解剖を理解している。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
④ 全身観察（頸部リンパ節の触診を含む）ができ、問題点の記載ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

G I O : 口腔外科基本臨床検査

口腔、口腔外科領域の病態と臨床経過を把握し、また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。

S B O s : 行動目標	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 口腔外科疾患に必要な歯科用 X 線検査を選択・実行できる。 (単純 X 線検査：セファロ、シュラー、P-A、ウォーターズ [※] 、オルビトラムス X 線検査)	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
② パノラマ X 線検査で口腔外科疾患を読影できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
③ X 線 C T 検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
④ M R I 検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

⑤ 細菌学的検査，薬剤感受性検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑥ 細胞診（擦過。穿刺），病理組織検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑦ 血算，白血球分画がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑧ 血液型判定，交叉適合試験がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑨ 心電図がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑩ 動脈血ガス分析がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑪ 血液生化学検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑫ 肺機能検査（スパイロメトリー）がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑬ 一般尿検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑭ G a シンチグラム、骨シンチグラムがオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O : 基本的な口腔外科疾患) の診断と治療計画

普通抜歯、簡単な埋伏、数歯までの炎症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、顎骨骨折、小嚢胞、顎関節脱臼、顎関節症の診断から治療まで修得する。

S B O s : 行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 診断の手順から確定診断まで総合的に実施ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
② 治療計画の立案ができ、手術に関する説明と同意が行える。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 治療法（必要器具、手技、投薬等）を理解している。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
④ 治療における合併症を理解している。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑤ 合併症に対する対策を理解している。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O : 口腔外科基本手技

口腔外科基本の手技を修得する。

S B O s : 行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 口腔外科処置に適した麻酔が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
② 下顎孔伝達麻酔が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 普通抜歯，簡単な埋伏抜歯が実施（器具準備を含む）できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
④ 炎症の切開排膿処置が実施（器具準備を含む）できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

⑤ 顎間固定術、歯牙固定術、脱臼整復術を実施（器具準備を含む）できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑥ 口腔内外の縫合法を実施（器具準備を含む）できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑦ 各種止血法を実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑧ 注射（皮内，皮下，筋肉，点滴，静脈確保）が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑨ 採血が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑩ 合併症の対策が施行できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑪ 小嚢胞の手術（粘液嚢胞を含む）ができる。			

G I O : 基本的な口腔外科疾患の管理法

S B O s : 行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 基本的な口腔外科疾患の臨床病態および予後観察とそれらの主観的客観的評価が適切にできる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
② 全身の管理、口腔機能の改善，回復（嚥下訓練、開口訓練などのリハビリ指導等）ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 薬物の作用，副作用，相互作用について理解し，薬物療法（抗菌薬，解熱剤）ができる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O : 多くの口腔外科疾患を経験する。

多くの口腔外科疾患の診断、治療、予後観察までを継続的に臨床現場で体験する。

S B O s : 行動目標

	分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (E V)
① 見学例、実施経験例を記載する。 （外来口腔外科疾患症例、入院口腔外科疾患；入院管理や入院手術補佐例等） 症例カードに月毎に記載（別紙に記入：記入法は口腔外科専門医症例報告用の記入例を参照すること） コメントと評価（a～d）は指導医が行う）	技 知 態	(1, 2, 4-7) (1～7) (3, 4, 7)	④-2, 3⑤⑥ ①～④-1, 2, 4⑤～⑦ ④-2, 3, 4⑤⑥⑦

IV : 麻酔科研修

G I O : 歯科麻酔 ⇒ 医科麻酔を経験する。

歯科患者の全身管理・麻酔管理に関する知識と技能を身につける。

歯科麻酔（20例以上）研修後に3カ月の医科麻酔研修を行う。

⇒ 麻酔研修は愛知医科大学麻酔科研修カリキュラムに沿って行う。

S B O s : 行動目標

- ① 一般的な術前診察と全身状態評価ができる。
- ② 麻酔器の取扱いができる。
- ③ 麻酔前準備ができる。
- ④ 末梢静脈確保ができる。
- ⑤ 気道確保(用手またはエアウェイを用いたもの)ができる。
- ⑥ 用手人工換気ができる。
- ⑦ 気管吸引ができる。
- ⑧ 基本的なモニタリング機器の装着と操作ができる。
- ⑨ モニタリング項目の値の解釈と麻酔中の全身状態の把握ができる。
- ⑩ 麻酔後の全身状態の把握ができる。
- ⑪ 術後酸素療法ができる。

分類	研修方略(LS)	形成的評価(EV)
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

V : 救命救急科研修

G I O : 救命救急科を経験する。

一定期間の臨床経験を積んだ後に、救命救急科で救命救急分野に関連するより高度な研修を行う。救命救急科では、生命や機能的予後に係わる緊急を要する病態に対して適切でより高度な対応を学ぶ。

⇒ 救命救急研修は愛知医科大学救命救急科研修カリキュラムに沿って行う。

S B O s : 行動目標

- ① バイタルサインのチェック (Japan Coma Scaleによる意識レベルの評価を含む。) ができる。
- ② 頭頸部・胸部・腹部・四肢の視診、触診ができる。
- ③ 胸部・腹部の聴診ができる。
- ④ 打鍵器などを用いた神経学的診察ができる。

分類	研修方略(LS)	形成的評価(EV)
知、技	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

⑤ 用手気道確保ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑥ 経口・経鼻エアウェイの挿入ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑦ BVM(バッグ・バルブ・マスク)による用手人工呼吸ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑧ 麻酔器、マスクによる用手人工呼吸ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑨ 気管挿管下の用手人工呼吸ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑩ 経胸壁用手心臓マッサージができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑪ AEDによる除細動(VF/脈無しVT)ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑫ 末梢静脈路確保ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑬ 非侵襲的モニターの装着及び検査(SPO2、ECG、血圧計など)ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑭ 動脈・静脈採血ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑮ ACLSのVF/VT、PEA、心停止のアルゴリズムで使用する薬剤の使用ができる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑯ 救命救急センター、救急部における救急輸液の実地ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑰ 創洗浄、創縫合(歯科口腔外科領域のもの)ができる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑱ チームカンファレンスへの参加ができる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦

VI：形成外科研修

G I O：形成外科を経験する。

麻酔研修、救命救急研修後に形成外科での研修を行う。形成外科での研修は創傷の診断から治療、手術の基本、縫合について学ぶ。
⇒研修は形成外科研修カリキュラムに沿って行う。

S B O s：行動目標

	分類	研修方略(LS)	形成的評価(EV)
① 頻度の高い疾患や外傷の診断と治療を理解する。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
② 顔面を主にした体表面の外傷(挫創、擦過傷など)の処置の仕方(麻酔、消毒、洗浄、縫合など)を修得する。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
③ 基本的な手術器具の名称、使用方法が理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
④ 瘢痕の経過と時期に応じた治療法が理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑤ ケロイドと肥厚性瘢痕の鑑別診断ができる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑥ 顔面のレントゲン写真、CTの読影の仕方、特に骨折の診断法が理解できる。	知	(1~7)	①~④-1, 2, 4⑤~⑦
⑦ 病変、外傷部、術前、術中、術後とその経過の写真撮影方法が実施できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

⑧ 手術を要する場合、術式の選択や麻酔方法の決定の仕方が理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
⑨ 術後のスキンケアを実践できる。	技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
⑩ 遊離植皮、有茎皮弁、遊離皮弁の手技の違いと長短所が理解できる。	知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

Ⅶ：自己研鑽

G I O：自分自身で一般目標を設定し実行する。

苦手克服のため、興味のある分野、実行したいこと等について自身で一般目標、行動目標を設定し実行する。但し形成評価は指導医が行う。

S B O s：行動目標

分類 研修方略(LS) 形成的評価(EV)

①

②

VIII：インプラント・顎関節症・無呼吸症候群

以下については当科での頻度が高いので2年次においてプログラムを施行する。

G I O：インプラントについて理解する。

当科での高頻度治療であるインプラントについて理解する。

S B O s：行動目標

- ① 基本概念と基本的な適応症を理解している。
- ② 診断から補綴までの治療の流れと手技を理解している。
- ③ 模型実習（手術手技、半調節性咬合器の使用法）を行う。
- ④ 手術の補助ができる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥

G I O：顎関節症について理解する。

当科への受診頻度が高い顎関節症の臨床（基本）を理解する。

S B O s：行動目標

- ① 症状と検査法、症型分類、予後評価ができる。
- ② MRIの撮影条件の指示と読影ができる。
- ③ スプリントの制作・調整実習を行う。
- ④ スプリント療法を理解し実践できる。
- ⑤ 関節洗浄療法について理解している。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

G I O：無呼吸症候群について理解する。

本院では睡眠センターを中心にチームアプローチを行っている。無呼吸症候群について理解し、当科の役割を理解する。

S B O s：行動目標

- ① 病態と検査法、治療法の基礎を理解している。
- ② 病態を把握できる。
- ③ 他科へのコンサルトができる。
- ④ PMAの作成手順と方法を理解し作成できる。
- ⑤ 治療効果を評価できる。

分類	研修方略 (LS)	形成的評価 (EV)
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦
態	(3, 4, 7)	④-2, 3, 4⑤⑥⑦
技	(1, 2, 4-7)	④-2, 3⑤⑥
知	(1～7)	①～④-1, 2, 4⑤～⑦

年 月

実施件数 / 見学例数 + 実施例数

保存・補綴の実施例数は患者数でなく施行数。見学例数は患者数。

1. 外来傷病名別統計(／月)																														
区分	口腔外科的疾患												小計	保存・修復疾患			補綴疾患		その他			小計	合計							
	傷病名	良性腫瘍	悪性腫瘍	外傷	炎症	嚢胞	先天異常・奇形	顎変形症	顎関節疾患	神経性疾患	口腔粘膜疾患	血液疾患		唾液腺疾患	埋伏歯疾患	その他	う歯	歯内疾患	歯周疾患	その他	有床義歯			冠・ブリッジ	インプラント	歯列不正	その他			
総数																														
2. 入院患者傷病名別統計(／月)																														
区分	腫瘍			外傷		炎症		嚢胞		先天異常・奇形			顎変形症			顎関節疾患	神経疾患			口腔粘膜疾患	血液疾患	唾液腺疾患		その他				合計		
	傷病名	良性・歯源性	良性・非歯源性	悪性・癌腫	悪性・その他	顎顔面骨折	歯・歯槽骨	軟組織	歯源性・顎骨炎	非歯源性	歯源性	非歯源性	軟組織・その他	唇・顎裂	口蓋裂		唇顎口蓋裂	その他	下顎前突症			上顎前突症	開咬・その他	神経痛	神経麻痺	その他	唾液腺炎・唾石症		唾液腺腫瘍	多発性う歯
総数																														

保存・補綴 担当症例用紙

No.

研修医氏名：

既往歴：

現症から：

診断：

問題リスト

治療方針と患者への治療方針の説明内容：

治療内容

日付	治療内容	説明内容

名前

経験症例

年度

I 臨床基礎		
1-1 医療面接	各5例以上、合計30例以上	
1-1-1 病歴聴取・記録が的確に行える。		症例
1-1-2 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。		症例
1-1-3 インフォームドコンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、指導ができる。1-3		症例
1-1-4 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。		症例
1-1-5 相手に好印象を与えている。		症例
		合計 症例
1-2 チーム医療	各5例以上、合計30例以上	
1-2-1 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。		症例
1-2-2 上級・同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。		症例
1-2-3 医療チームにおける実践的な役割を理解し適した行動がとれる。1-2-3		症例

1-2-4患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。		症例
1-2-5関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。		症例
1-2-6病診連携が行える。		症例
	合計	症例
1-3問題対応能力	5症例(レポート)	
1-3-1臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる(EBMが実践できる)。		症例
1-3-2自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。		症例
1-3-3臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。		症例
1-3-4自己管理能力を身につけ、生涯にわたり知識、基本的診療能力の向上に努める。		症例
	合計	症例
1-4安全管理	50例以上	
1-4-1医療を行う際の安全確認の考え方を理解・実施できる。		症例
1-4-2医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。		症例
1-4-3院内感染対策(Standard Precautionsを含む)を理解・実施できる。		症例
1-4-4クリニカルパスを施行できる。		症例

		合計	症例
1-5 症例提示	1 症例以上(学会発表)		
1-5-1 症例提示と討論ができる。			症例
1-5-2 臨床・学術に関するカンファレンス・学会・集會に参加、発表する。			症例
		合計	症例
1-6 診療計画	各 1 例以上、合計 5 例以上		
1-6-1 診療計画(診断, 治療, 患者・家族への説明を含む; POS システム)、診療概要録、手術記録を作成できる。			症例
1-6-2 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。			症例
1-6-3 入退院の適応を判断できる(デイサージャリー症例を含む)。			症例
1-6-4 QOL(Quality of Life)を考慮にいれた総合的な管理計画(リハビリテーション, 社会復帰, 在宅医療, 介護を含む)へ参画する。			症例
		合計	症例
1-7 医療の社会性	1 症例(レポート)		
1-7-1 保健医療法規・制度を理解し, 適切に行動できる。			症例

1-7-2医療保険, 公費負担医療を理解し, 適切に診療できる。		症例
1-7-3医の倫理, 生命倫理について理解し, 適切に行動できる。1-7-3		症例
	合計	症例
Ⅱ 歯科治療		
2-1基本的な歯科疾患の診察法	各10例以上、合計50例以上	
2-1-1歯牙、口腔内(歯、歯周組織、舌、口底、頬粘膜、硬口蓋、軟口蓋等)所見をとり記載する。		症例
2-1-2特に全身の観察と歯科治療時に関係のある臨床検査所見を理解できる。		症例
2-1-3歯科治療時の全身的問題点を把握し記載ができる。		症例
2-1-4歯科治療時の全身的問題点に関するコンサルトが関連医科に行える。		症例
2-1-5歯科治療時の局所的問題点の把握・記載ができる。		症例
	合計	症例
2-2基本的な歯科臨床検査	各5例以上、合計50例以上	
2-2-1歯科用X線検査と読影ができる。		症例

2-2-2 歯科用X線検査と読影ができる。		症例
2-2-3 電気歯髄診断、EMRができる。		症例
2-2-4 温冷痛検査ができる。		症例
2-2-5 歯周検査ができる。		症例
2-2-6 スタディモデルの診査ができる。		症例
	合計	症例
2-3 歯科基本治療診断	各5例以上、合計20例以上	
2-3-1 保存修復治療適応の診断ができる。		症例
2-3-2 歯内治療適応の診断ができる。		症例
2-3-3 歯周治療適応の診断ができる。		症例
2-3-4 補綴治療適応の診断ができる。		症例
2-3-5 歯科治療に必要な麻酔が施行できる。		症例
	合計	症例
2-4 総合的な歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施。	合計20例以上	
2-4-1 1 口腔単位で総合的な歯科疾患の診断ができる。 2-4-1		症例
2-4-2 1 口腔単位で総合的な歯科診療計画が立案できる。		症例
2-4-3 1 口腔単位で総合的な歯科治療が行える。		症例
	合計	症例

2-5基礎疾患を有する患者の歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施	合計10例以上	
2-5-1基礎疾患を十分に理解し総合的な歯科疾患の診断ができる。		症例
2-5-2基礎疾患の問題点を視野にいれた総合的な歯科診療計画が立案できる。		症例
2-5-3基礎疾患の問題点に対応した総合的な歯科治療が行える。		症例
	合計	症例
Ⅲ基礎口腔外科		
3-1口腔外科基本手技	合計 15 症例以上	
3-1-1口腔外科処置に適した麻酔が実施できる。		症例
3-1-2下顎孔伝達麻酔が実施できる。		症例
3-1-3普通抜歯,簡単な埋伏抜歯が実施(器具準備を含む)できる。		症例
3-1-4炎症の切開排膿処置が実施(器具準備を含む)できる。		症例
3-1-5顎間固定術、歯牙固定術、脱臼整復術を実施(器具準備を含む)できる。		症例
3-1-6口腔内外の縫合法を実施(器具準備を含む)できる。		症例
3-1-7各種止血法を実施できる。		症例
3-1-8注射(皮内,皮下,筋肉,点滴,静脈確保)が実施できる。		症例
3-1-9採血が実施できる。		症例
3-1-10合併症の対策が施行できる。		症例

3-1-11小嚢胞の手術(粘液嚢胞を含む)ができる。		症例
		合計 症例
3-2基本的な口腔外科疾患の管理法	合計5症例(症例検討会)	
3-2-1基本的な口腔外科疾患の臨床病態および予後観察と、それらの主観的客観的評価が適切にできる。		症例
3-2-2全身の管理、口腔機能の改善、回復(嚥下訓練、開口訓練などのリハビリ指導等)ができる。		症例
3-2-3薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物療法(抗菌薬、解熱剤)ができる。		症例
		合計 症例
3-3多くの口腔外科疾患を経験する	1症例以上	
3-3-1見学例、実施経験例を記載する。		症例
		合計 症例
IV麻酔科研修		
4-1歯科麻酔 ⇒ 医科麻酔を経験する	歯科麻酔(20例以上)研修、3カ月間の医科麻酔研修	
4-1-1一般的な術前診察と全身状態評価ができる。		症例
4-1-2麻酔器の取扱いができる。		症例
4-1-3麻酔前準備ができる。		症例
4-1-4末梢静脈確保ができる。		症例
4-1-5気道確保(用手またはエアウェイを用いたもの)ができる。		症例

4-1-6 用手人工換気ができる。		症例
4-1-7 気管吸引ができる。		症例
4-1-8 基本的なモニタリング機器の装着と操作ができる。		症例
4-1-9 モニタリング項目の値の解釈と麻酔中の全身状態の把握ができる。		症例
4-1-10 麻酔後の全身状態の把握ができる。		症例
4-1-11 術後酸素療法ができる。		症例
		期間 合計
		ヶ月 症例
V 救命救急科 研修		
5-1 救命救急を経験する	1カ月間の救命救急 科 研修	
5-1-1 バイタルサインのチェックができる。(Japan Coma Scale による意識レベルの評価を含む。)		
5-1-2 頭頸部・胸部・腹部・四肢の視診、触診ができる。		
5-1-3 胸部・腹部の聴診ができる。		
5-1-4 打鍵器などを用いた神経学的診察ができる。		
5-1-5 用手気道確保ができる。		
5-1-6 経口・経鼻エアウェイの挿入ができる。		
5-1-7 BVM(バッグ・バルブ・マスク)による用手人工呼吸ができる。		
5-1-8 麻酔器、マスクによる用手人工呼吸ができる。		

5-1-9気管挿管下の用手人工呼吸ができる。		
5-1-10経胸壁用手心臓マッサージができる。		
5-1-11AEDによる除細動(VF/脈無しVT)ができる。		
5-1-12末梢静脈路確保ができる。		
5-1-13非侵襲的モニターの装着及び検査(SPO2、ECG、 血圧計など)ができる。		
5-1-14脈・静脈採血ができる。		
5-1-15ACLSのVF/VT、PEA、心停止のアルゴリズムで 使用する薬剤の使用ができる。		
5-1-16救命救急センター、救急部における救急輸液の 実地ができる。		
5-1-17創洗浄、創縫合(歯科口腔外科領域のもの)が できる。		
5-1-18チームカンファレンスへの参加ができる。		
		期間： ヶ月
VI形成外科研修		
6-1形成外科治療を経験する	2週間の形成外科 研修	
6-1-1頻度の高い疾患や外傷の診断と治療を理解する。		
6-1-2顔面を主にした体表面の外傷(挫創、擦過傷など) の処置の仕方 技術(麻酔、消毒、洗浄、縫 合など)を修得する。		

6-1-3基本的な手術器具の名称、使用方法が理解できる。		
6-1-4瘢痕の経過と時期に応じた治療法が理解できる。		
6-1-5ケロイドと肥厚性瘢痕の鑑別診断ができる。		
6-1-6顔面のレントゲン写真、CTの読影の仕方、特に骨折の診断法が理解できる。		
6-1-7病変、外傷部、術前、術中、術後とその経過の写真撮影方法が実施できる。6-1-7		
6-1-8手術を要する場合、術式の選択や麻酔方法の決定の仕方が理解できる。		
6-1-9術後のスキンケアを実践できる。		
6-1-10遊離植皮、有茎皮弁、遊離皮弁の手技の違いと長短所が理解できる。		
		期間： 週間
Ⅶインプラント・顎関節症・無呼吸症候群		
7-1インプラントについて理解する	合計1症例以上(手術補助)	
7-1-1基本概念と基本的な適応症を理解している。		症例
7-1-2診断から補綴までの治療の流れと手技を理解している。		症例
7-1-3模型実習(手術手技、半調節性咬合器の使用法)を行う。		症例
7-1-4手術の補助ができる。		症例

		合計	症例
7-2顎関節症について理解する	合計 1 症例以上		
7-2-1症状と検査法、症型分類、予後評価ができる。			症例
7-2-2MRIの撮影条件の指示と読影ができる。			症例
7-2-3スプリントの制作・調整実習を行う。			症例
7-2-4スプリント療法を理解し実践できる。			症例
7-2-5関節洗浄療法について理解している。			症例
		合計	症例
7-3無呼吸症候群について理解する	合計 1 症例以上		
7-3-1病態と検査法、治療法の基礎を理解している。			症例
7-3-2病態を把握できる			症例
7-3-3他科へのコンサルトができる。			症例
7-3-4PMAの作成手順と方法を理解し作成できる。			症例
7-3-5治療効果を評価できる。			症例
		合計	症例